

全国コーディネーター活動 ネットワークの構築・強化

(文部科学省産学官連携支援事業)

目的: 全国の産学官連携コーディネーターによる**全国的なネットワークを構築**し、各コーディネーターの**連携活動を促進**するとともに、各コーディネーターが活動を通じて得た**知見等を収集、整理して提供**することにより、我が国の**産学官連携活動の質的向上**を図るとともに、**産学官連携施策の立案**にも資する。

財団法人日本立地センター
全国イノベーション推進機関ネットワーク事務局
プロジェクト統括 前田 裕子(本事業実施代表)

優れたコーディネーター人材像

大学側と産業界側をつなぐ連携の絵を自ら描き、
人と人をつないで関係機関にウィン・ウインの成
果をもたらせる人材が必要



産学の溝を埋めることによって、更に大学の知を
イノベーション創出につなげることができる

大学の技術移転活動に対する学側と産側の認識の違い

国立大学法人化後、大学は徐々にではあるが変化している

大学研究者

研究論文重視、事業化考慮外から、
大学CDとの連携重視、研究内容の知財化、権利化、事業化を意識

大学CD

単なる発明発掘、特許管理業務から、積極的な術移転活動への転換

産業側の大学技術移転活動に対する認識は旧態依然

産業側CD

事業化は産産連携が容易、産学連携は？
大学開発技術は分かりにくく、事業化にほど遠い

産学官連携促進のためには学と産のCDの意識、
スキルの溝を埋める必要がある

地域単位の会議(各地域大学に会場提供や発表をお願いしています)

3回の各テーマ会議を通じて
CDの問題認識の共有と、地域ネットワーク構築を図る

第1回会議 「課題抽出のための全員参加型意見交換会」(大学シーズ発表も予定)

参加者全員(50名程度)が発言し、CDが抱える問題点の具体的な洗い出しを行う。同時に研究シーズも発表し、技術移転の問題点を探る議論も行う。

第2回会議 「抽出課題をテーマとしたグループワーク」(大学シーズ発表も予定)

抽出課題をテーマとしたグループワークで対応策を議論する。
こうした議論を通じて、地域のネットワーク構築、人脈形成を図る。

第3回会議 「地域におけるCDの活動事例発表」 (多くのコーディネーターの方に発表をお願いします)

第1回、第2回会議で得られた知見を背景にしたCDによる活動事例(企業ニーズやCD支援手法等も紹介)発表で、産業界のニーズ、CD活動ノウハウ、問題点と解決策等の情報共有を図る。

全国単位の会議(案)

全国の大学側・産業界側のCD意識レベルを合わせると共に、人脈を形成する

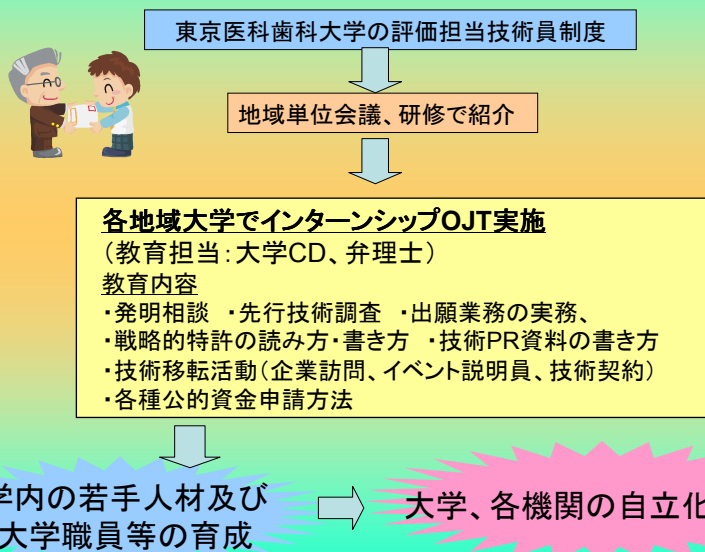
	内容	講演者等
1	文部科学省の新制度・施策等報告	文部科学省
2	経済産業省の新制度・施策等報告	経済産業省
3	基調講演	産学官連携分野の専門家
	特別講演	産学官連携分野に関わる研究者
4	産学官連携の成功事例紹介 ・海外の事例 ・大学の事例 ・研究所の事例 ・中小企業の事例	各機関の産学官連携業務担当者
5	パネルディスカッション 「広域的な産学官連携」	各機関の産学官連携業務担当者
6	意見交換会「CDネットワーク形成のための問題点と対応」	全員参加
7	交流会	

平成22年11月2日に開催!

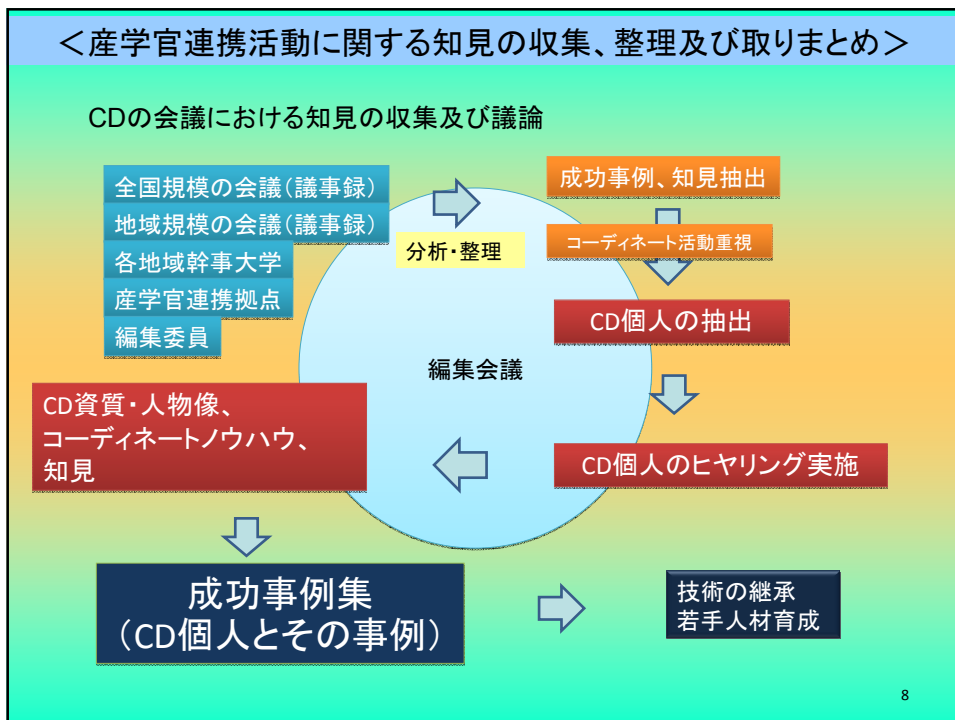
5

インターンシップ制度の全国普及

～大学独自でのコーディネータ体制確立の為に～



6

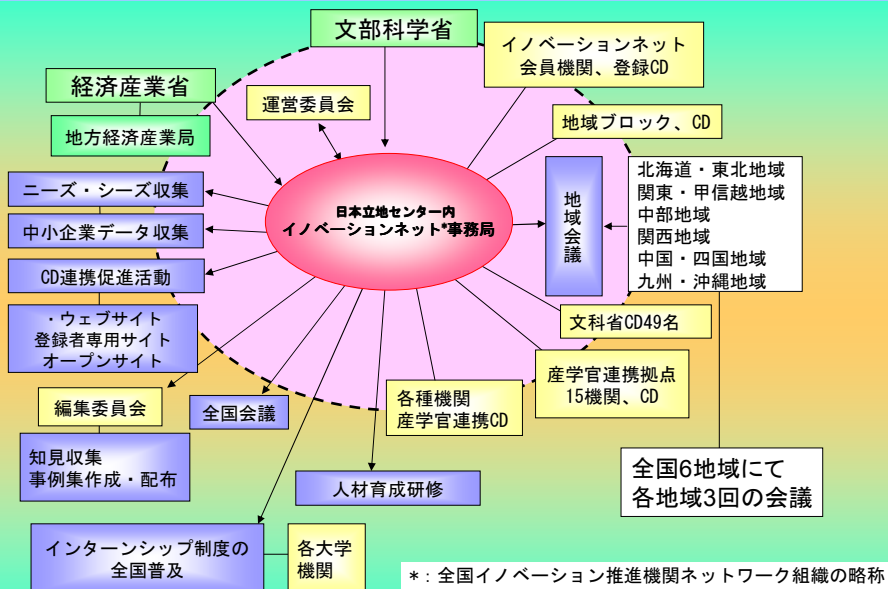


人材育成研修内容(案)

1日目基礎コース研修内容		2日目基礎コース研修内容	
1	研修ガイダンス、CD調査解析結果 産学官連携の現状と政府施策等について、 インターンシップ制度の実例紹介	技術契約ならびにライセンス契約	
2	コーディネーターの仕事術～その目的と役割、求められる能力とは？	利益相反	
3	コミュニケーション能力向上に関するグループワーク	大学の研究開発プロジェクトのマネジメントと知的財産	
4	交流会	地域イノベーション創出支援の現状	
3日目基礎コース研修内容		4日目応用コース研修内容	
1	産学官連携コーディネーターの活用事例：大学対応	産学官連携コーディネーターの活用事例：企業対応	
2	米国における技術移転方法	技術移転の成功確率を高めるための手法	
3	企業の特許戦略	ベンチャー企業のビジネス戦略	
4	技術移転時の知的財産権や公的資金の効率的な活用方法	米国における最近の特許事情	
5日目応用コース研修内容			
1	産学官連携コーディネーターの活用事例：企業対応		
2	新事業（産業）創出・育成することを支援する為の ケースメソッド 7～8名×7グループ		

9

業務内容とCDネットワーク関連図



10